

いなほ

第 88 号

2019 年 5 月 20 日

NPO 法人 萌

代表 波多江 伯夫

横浜市戸塚区深谷町 893-2

B型事業所 工房いなほ

相談支援事業所 ふかや

自立生活援助事業所 ほなみ

グループホーム 独歩

TEL 045-443-7416

URL <http://www.mo-e.jp>

総会に向かって

福祉は計画相談の猶予期限が終わり、本格化されるようになった。また自立生活援助、職場定着支援などが新設されて新たな展開を迎えようとしている。NPO 法人萌が設立して 11 年目となる。振り返ってみれば存続の危機が何度もあった。その都度乗り越えてきたが、失うことも多々あった。設立当時を知っている人はごくわずかとなり、新しい人たちによって活動している。

就労支援 A 型事業所からスタートしたが、営業開発能力が足りず就労支援 B 型事業所に変更せざる負えなくなった。あれから 4 年が過ぎた。就労支援 B 型になったことで見えてきたのは、生活という側面であった。地域生活は、暮らし、働く、学ぶ、遊ぶという要素がないと生きてはいけない。障害を持っているが生活者であるという認識に立てば、働くだけでは生活は成り立たないということであった。工房いなほは就労支援事業所である。毎日通ってきているから生活はできているとは限らないことも分かってきた。生活習慣病になっていたり、生活の乱れが仕事に支障をきたしていたりとさまざまな問題が表面化して、生活のしづらさが浮かび上がってきた。生活という視点から就労を考えるようになってきた。見えてきたのが、日常生活から働くことを中心とした職業生活へと移行する過程が非常に重要となっていることに気付いたのである。いわゆる就労準備性の問題である。

生活アセスメントに重点をおいて観察し、類推することは可能だが、やはり訪問して自分の目で生活を見ることが大切である。訪問支援(アウトリーチ)を重視した支援を方針とした。些細な対人関係の行き違い、問題解決の対処の困惑などを一緒に考えるようにした。生活の在り方が見えてきたことは、暮らすという生活のしづらさであった。

アウトリーチは信頼の関係がないと成立しない。家に行く一家に入れてくれるという関係性、深入り－陰性感情の表出などがあり、諸刃の剣である。縦割りの事業所別障害者支援の体制の中で、生活者として、働く、暮らす、学ぶ、遊ぶという横の関係のつながりが必要となるので、非常に難しい。

人生において一番よかったこともしくは悪かったこと



Taさん 規則正しい生活になれた事

Naさん 今、みんなと楽しくやっている事

Kaさん 溶接の仕事をクビになった事 30年もやった。

Shさん 宝くじがなかなか当たらなかった事

Okさん 自分の稼いだお金で、お姉ちゃんの子供たちにおもちゃを買ってあげた事

Riさん 結婚できてよかった。

Muさん 生まれた事。いろんな人と巡り会えた事

Arさん みんなが声をかけてくれたり、手を貸してくれる事

Ogさん 過去に。2日続けて万馬券をとった事

Kuさん 自動販売機の冷たい飲み物、あれはよかった！

Kiさん 平和な時代に生まれた事

Ooさん 病気になった事

Shさん みんなと仲良くなってよかった事

Seさん 病気になった事

Waさん 子供の成長

Gaさん 弟の娘が結婚する事

ki 大友克洋の「アキラ」をヤングマガジン連載時に読めた事。変な病気になったけど、それ以降の人との出会いに恵まれた事

ご協力頂いたみなさま、ありがとうございました。Ki***

事例検討4***利用者との距離の持ち方****

これは私がまだ若かったころの話。

当事者主体という考え方が好きであった。知的障害の B さんは、であったころ、昼夜逆転した生活を送っていた。幼少期養護施設で育ち、仲間から性的虐待を受けて育った。女性になりたいと真剣に思い、化粧やブラジャーなどをつけて、女装して外出した。部屋は昼が見えないくらい、雑誌と漫画とペットボトルで埋まっていた。精神薬を飲んでいて、故意にか？薬をいっぺんに飲んで、救急車で運ばれたこともあった。

好きなことはアニメを書くこと。調理師の免許を習得していたので、食事作りが好きだった。作った食事は中華系の調味料が盛り沢入っていて、妙な味がした。でも、一週間に一回は彼を訪問して、生活の状況を把握し、手料理を食べた。なんとか、作業場に来られるように、あの手この手を使ったが、昼夜逆転はなかなか治らなかった。

彼は生活保護を受けていた。お金の使い道は、カードの収集と携帯の料金だった。ほかの生活は質素であったが、いつも支払いに追われて、家賃が滞納されることがままあった。そのうちに、私にお金の無心をするようになり、家賃が支払えないとか、いろいろな口実をつけて無心してきた。その頃の私は、妙に優柔不断なところがあり、こと割ることができなかった。作業場にきちんと通うことを条件に、お金を度々都合をつけるようになってしまった。金額が二けたになったとき、さすがにやばいことだと思い、上司に事の顛末を伝えた。

当事者を中心に考えるということは、当事者の言いなりになることではない。支援者と当事者との距離が大切なことだと思う。その頃の私には、そのバランスがわからず、ましてや強くこれはダメと言えなかった。当事者の気持ちの中に自分が流れ出し、結果的には、本人のためにならぬこともある。

しかし、今でもその傾向が払拭されたわけではない。いつの間にか、相手の気持ちになりすぎて、支援の方法がわからなくなることがある。距離の持ち方は永遠の課題である。

編集後記

NPO法人萌の総会は6月16日13:00～関内ルノール会議室で行われます。会員の方はよろしくお願ひします。

早くも1年の半分が過ぎていく。どんどんと時が過ぎていきますね。